

教育目標		やさしく かしく すこやかに——命を大切に・人を大切に・物を大切に——						
重点目標		(1) 基本的人権が尊重される教育の推進 (2) 一人ひとりのニーズを把握し、適切な教育支援を行う「特別支援教育」の推進 (3) わかる授業の創造による、生きてはたらく学力の育成 (4) 心ふれあう仲間づくり (5) 基本的な生活習慣を身につけさせる (6) 心を育てる美しい環境づくり (7) 命を守る安全教育の推進 (8) 健やかな体づくり						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的、基本的な知識・技能を習得させる。</li> <li>個々の教師の資質を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の向上をめざし、授業作りを行っていく。習熟しにくい子どもたちには、個別に関わり、児童に合った指導をしていく。</li> <li>週4回、10～15分間の朝学習を活用し、反復練習を繰り返し行い、徹底する。漢字と計算練習を中心に行う。</li> <li>計算・漢字の練習を日頃から家庭での学習課題として出し、小テスト前日にはテストと同じ範囲を課題として出す。</li> <li>兵庫型教科担任制や新学習システム、チームティーチングを活用することによって、きめ細やかな個に応じた指導をする。</li> <li>すべての教員が年1回以上の公開授業を行う。事後研では、改善点を話し合い、成果と課題をまとめ、今後の指導にいかす。</li> <li>研究推進委員会や学力向上委員会を中心に全職員で学力向上に向けて授業の改善を図る。</li> <li>学期ごとに振り返りを行い、各学年における成果や改善策についてまとめ、全職員で課題や児童の実態を共有し、次の学期の指導にいかす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元テストの計算分野の正答率が80パーセント以上になる。</li> <li>朝学習の時間、児童が集中して学習に取り組める。</li> <li>漢字の小テストの正答率が90%以上になる。</li> <li>すべての教員が、年1回以上授業を公開する。</li> <li>学力向上委員会を学期に一度行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元テストの計算分野の知識・技能における正答率が、80%に達しない学年もあった。</li> <li>学校全体で15分間の朝学習の時間を確保し、計算・漢字の学習に取り組むことができた。</li> <li>朝学習や授業の始めに学習内容の復習を行ったり、プリント等を活用し、繰り返し練習した結果、学習内容の定着を図ることができた。</li> <li>どの学年も宿題などで、新出漢字を含む漢字練習を家庭での課題等で繰り返し行い定期的に小テストを行ったが、正答率90%以下であった。</li> <li>兵庫型教科担任制により、一人ひとりの児童の課題などを複数の担任で把握し、個に応じた指導をすることができた。</li> <li>研究授業を行う際、事前に学年のもう一つのクラスで授業を行うなどして、十分に学年や学団で、教材研究や事前研を行い授業の内容を深めることができた。</li> <li>学期ごとに日々の学習の取り組みについて、アンケートを行って成果と課題についてまとめ、次の学期の指導に活かした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も基礎学力の向上を目指して授業づくりをしていく。また習熟しにくい児童には、授業中個別に関わり、児童に合った指導をしていく。また朝学習や授業の始めにプリント学習や音読計算など漢字や計算の反復練習に取り組む。</li> <li>学習内容の定着を図るため、授業の始めに復習の時間を設けたり、単元にあった問題を宿題などで集中して取り組ませるようにする。また単元テストなどで間違えた問題を解き直すことを徹底し、確実に理解できるようにする。</li> <li>それぞれの教師の授業の工夫を研修会などで共有すること今後も研鑽に努める。</li> <li>児童が達成感を味わえる授業づくりができるように全職員で児童の課題や実態を共有し、それらに合った授業内容の研究を深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時に応じ、きめ細やかな点検を確実に習得できるよう取り組みを継続していただきたい。学期ごとにより短いスパンでフィードバックが必要でないか。</li> <li>放課後に児童が数名残り、学習する姿をよく見かけました。個別1人1人に指導されている。</li> </ul>	
	学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開する。</li> <li>書く活動を充実させ表現力の育成を図る。</li> <li>読書活動を充実させ、本に親しむことを通して、語彙の力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを持つために、一人学びの時間を授業に取り入れる。</li> <li>自分の考えたことを全体の場で各自が表明する場面を授業の中に取り入れる。</li> <li>「考えのトライアングル」を提示し、各自が自分の考えをまとめられるようにする。</li> <li>授業の中で、自分の考えをノートやワークシートに書く活動を取り入れる。</li> <li>要約文や感想文を書いたりする活動を取り入れることで、内容や目的を理解して書くなどの表現力の育成を図る。</li> <li>週1回の図書の時間、業間での本の貸し出しや、児童や教師による読み聞かせや本紹介など読書を啓発する活動を行い、読書意欲の向上を図り、一人一人の読書量が増えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題に対して、児童が自分の考えをもち、主体的に学習に取り組むことができる。</li> <li>単元テストの記述問題で、問われている内容を理解し、自分の考えを書ける児童が90%以上になる。</li> <li>「本を読むのが好きだ」という児童を増やす。</li> <li>1ヶ月の読書目標数平均10冊を達成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもがそれぞれに考えを持ち、粘り強く学習に取り組めるような授業づくりを行うことができた。</li> <li>ノート指導を丁寧に行い、ノートを書くことへの抵抗感がなくなり、書く習慣が身についてきた。</li> <li>今年度はコロナ感染予防対策のため、業間休みの開館、図書時間の読み聞かせができなかったが、朝学習で週1回読書の時間を設定し、本に親しむ時間を確保することができた。しかし「本を読むのが好きだ。」という児童の割合が昨年度と変わらず、86パーセントであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを表現するのが苦手な児童には個別に聞き取りをしたり、まとめるのが苦手な児童には定型文を示したり、また自分の考えを自由に話せるような学級の風土を作ったりして、自分の考えを全員が発表できることをめざす。</li> <li>引き続き、授業の中で自分の考えをノートやワークシートに全員が書けるように指導していく。</li> <li>今後も図書の時間に、本の紹介をしてもらったり、「おすすめの本」を紹介する機会を持ったり、学団で2カ月おきに学級文庫の入れ替えをするなどして、児童がたくさんの本に出会う機会を作り、読書に対する児童の意欲の向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本の読み聞かせをリモートなどで積極的に行うことで意欲向上を目指す。</li> <li>自らが計画を立てて、実行することで判断が正しかったのか考えることができるので、計画と実行(読書や家庭学習等子どもたちができるもの)を施策に取り入れてはいかかでしょうか。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。</li> <li>学習習慣の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の単元指導で、電子黒板、実物投影機等のICT機器を効果的に活用し、学習意欲の向上を図る。</li> <li>授業で提示する課題や教材を工夫し、児童が意欲的に自分の考えを持って取り組めるようにする。</li> <li>学習のめあてを明確にすることで、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。</li> <li>学習のふりかえりをする中で、一人一人が学習内容の理解を深められるようにする。</li> <li>漢字や計算を反復練習できる学習を宿題として出し、宿題に毎日取り組む習慣をつける。</li> <li>休日も自主学習を課題として出すなど、家庭学習に進んで取り組めるように課題を工夫する。</li> <li>「家庭学習の手引き」を配布し、各家庭との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートにおいて「授業はわかりやすい」の肯定的回答率が90%以上になる。</li> <li>児童アンケートの「先生は教え方をいろいろと工夫している」で肯定的評価が85%以上になる。</li> <li>児童アンケートの「宿題を提出している」の肯定的評価が95%以上になる。</li> <li>児童アンケートの「家庭学習(宿題を含めて)を高学年90分以上している」の肯定的評価が80%以上になる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートにおいて「授業はわかりやすい」に対する肯定的な回答が昨年度より上回っているが、90%に達していない。</li> <li>授業づくりの中で、ICT機器などを活用し視覚的に分かりやすいものを提示したり、発問を工夫したりと児童が意欲的に学習に取り組めるように努めることができた。教職員のアンケートの「ICT機器を効果的に取り入れている」に対し、肯定的評価が91%で昨年度を上回っていた。</li> <li>児童アンケートの「先生は教え方をいろいろと工夫している」に対して肯定的な回答が89%であった。</li> <li>授業の中でめあての提示はほとんどの教員が意識して行うことができた。ふり返りは時間が十分に確保できず、書かせる内容があいまいになってしまうこともあった。</li> <li>児童アンケートの「宿題を提出している」の肯定的評価が86%であった。</li> <li>児童アンケートの「家庭学習(宿題を含めて)を高学年90分以上している」の肯定的評価が51%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も「分かりやすい授業」を展開していくための授業研究を継続していく。</li> <li>教師同士で授業を見合う機会を多く設け、教師の授業力の向上につなげる。また、ICT機器、具体物や映像の効果的な活用方法についても全職員で研究を深めていく。</li> <li>学習のめあてを明確にし、学習のふりかえりをする中で、見通しをもって主体的に学習活動に参加させることを今後も継続していく。ふりかえりをする時間を確保するよう、今まで以上に意識して授業を構成する。</li> <li>授業の中でめあての提示はほとんどの教員が意識して行うことができた。またふりかえりで書くことを教室に掲示するなど可視化して書く内容を明確にして取り組む。</li> <li>宿題の点検を徹底して行なうなどし、低学年の内から、宿題の習慣をつける。また各家庭と連携し、宿題や自主学習に取り組む、家庭学習が定着するようにしていく。</li> <li>今後も引き続き、90分の目標を継続していく。その中で、宿題の習慣化をより意識した指導をすることで、家庭学習の時間を延ばしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年習い事をしている児童が増えて家庭で90分以上家庭学習時間を確保するのは難しいかもしれません。「読書」や「お手伝い」の時間も換算すれば家庭学習の時間も増えるのかもしれませんが。</li> <li>成果を時間で定めるのではなく、「何をやって、何がわかったか」という「内容」や「質」を重視することも検討してください。宿題は〇付けが翌日または週間けになり、意欲の持続が難しいように思います。</li> <li>タブレットの導入により、即時に採点されるアプリが導入されれば良いと思います。</li> </ul>

豊かな心・健やかな体	不登校児童への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の未然防止を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席連絡のない児童については、始業前後に家庭に連絡を取り、連絡のつかない場合は担任、児童支援教員やその他の教員と連携して必要に応じて家庭訪問を行う。</li> <li>・遅刻が増えてきた児童については、担任が学校での児童の様子を気かけたり、保護者や児童へ遅刻しないように声をかけたりする。</li> <li>・ケース会議を開き、個に応じた対策を検討する。(別室登校、担任が登校前に家庭訪問する等)</li> <li>・いじめアンケートをとり、いじめが原因の不登校を未然防止、早期発見する。</li> <li>・不登校の児童や別室登校の児童が出た時には、職員が連携して支援体制づくりをし、学校全体で取り組むようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病欠者を除き、欠席日数が年間30日以上の子を1パーセント以下にする。登校への行きしぶりが見られる児童に対して、月1回以上、必ずケース会議を開く。</li> <li>・保護者アンケートの「子どもは楽しく学校に通っている」、児童アンケートの「学校は楽しい」の肯定的回答が90%以上になる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も上靴チェックと電話連絡を継続。保護者とも連絡を取り合うことで、状況が良くなる児童もいたが、遅刻が常態化した児童もいた。</li> <li>・遅刻が常態化している児童については、担任から声かけを行っている。改善する児童もいたが、改善しない児童もいた。</li> <li>・今年度はケース会議を事態が悪くなる前に開くことで、先手を打って対応することができた。</li> <li>・いじめアンケートを年3回実施。本校ではいじめに起因する不登校はなかった。</li> <li>・不登校児童への対応については担任がまず対応するが、担任や学級の状態に合わせて支援体制も変えていく必要がある。</li> <li>・長期欠席児童は今年度も1%未満だった。</li> <li>・保護者アンケートでの肯定的意見が96%に対し、児童は77%だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻が続き、改善しない児童については担任だけに任せるのではなく、生活指導部などで情報共有し、どのように対応していくかを考え、実施していく。</li> <li>・いじめアンケートの丁寧な実施を今後も続け、アンケートに現れることだけでなく、日頃の児童の小さな変化などを学年で共有していくなど、すぐに対応できるようにしていく。</li> <li>・課題を抱える児童については電話連絡だけでなく、家庭訪問や面談の機会をより多く持ち、早期に対応できるようにしていく。</li> <li>・不登校児童や別室登校の児童が出た際には、関係の職員以外だけではなく、全職員に情報を共有し、担任と児童・家庭を支援していけるよう体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊心が低い児童の割合は以前より減少しつつあると思いますが、多面的に対応するためにも、特に教職員の連携が必要となる課題であると思います。</li> <li>・保護者アンケートでの96%が意見というのは摂陽小の先生方の取り組みが高く評価されたものと考えます。</li> <li>・ICTを積極的に取り入れ「わかりやすい授業」に活かす取り組みを今後も推進することで、学習意欲の向上につながると思われ。</li> </ul>
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育委員会児童主催の外遊びや啓発運動や運動大会を実施する。</li> <li>・休み時間の外遊びの充実に向け、各クラスに配布する備品の充実と、運動場の環境整備に取り組む。</li> <li>・鉄棒、マット、縄跳びなど、授業で活用できる「運動カード」を各学年の学習内容に応じて作成し、活用する。</li> <li>・体育大会に向けてリレー練習ができるように朝の時間トラックを開放して練習時間を設けたり、トラック以外にも練習ゾーンを設置したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全児童の外遊びの機会を増やすことを目指し、外遊びの計画実施や長縄大会・ドッジボール大会を実施する。</li> <li>・休み時間での外遊びを通して、体を動かすことの楽しさを感じながら、体力を向上させる。</li> <li>・授業で「運動カード」を活用し、授業や業間休みを通じて学習内容を深めようとする。</li> <li>・職員に周知し、多くのクラスが活用できるようにする。児童が自主的・主体的に取り組もうとする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス対策の観点から、外遊びの啓発運動や運動大会を実施することはできなかった。</li> <li>・教師主催で、「先生とのかけっこイベント」を実施した。児童は、走ることに楽しさを感じることができ、意欲的に参加することができた。</li> <li>・ソフトバレーボールを各クラス配布するなど、コロナ禍でも遊べる環境づくりに取り組めた。</li> <li>・業間休みに運動場での事故やケガがあった。安全点検を重ねて行い、事故やケガの恐れがある場所の改善を行った。</li> <li>・授業や業間休みに、「運動カード」に沿って、友だちと一緒に意欲的に取り組んでいた。</li> <li>・体育大会は実施できなかったが、「リレーカーニバル」を実施した。練習に取り組めたクラスと取り組めなかったクラスに分かれてしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を十分に検討し、体育大会や啓発運動、運動大会を実施する。</li> <li>・毎月の安全点検を入念に行い、事故やケガが起きない環境整備に取り組む。</li> <li>・低学年は、朝の時間や業間休みの練習は難しい実態があるため、その時間を中学年以上に割り振る。</li> <li>・練習エリアと遊びエリアを設け、トラックも使用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中での様々な取り組みが素晴らしい。健康に対する啓発により力を入れることが望まれる。</li> <li>・ボールやドッチビーなど購入されたのは良いとおもいます。今後も子どもたちが体を動かしてみたいと思えるアイテムを積極的に取り入れていただきたい。</li> <li>・業間等で外遊びの楽しさを実感させてほしいと思います。本来子どもは遊びの中で友達関係や上下関係を築いていくものだと思います。</li> <li>・コロナ禍で思うように体を動かすことができず、子どもたちの体力もかなり落ちたと思います。学校の体育の授業が楽しみだという声を聞くことができ意欲の向上につながっていると感じる。</li> </ul>
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に学校情報を発信する。</li> <li>・授業参観やオープンスクール・仲間作り集会の参観を実施し、保護者や地域の方に授業の様子を公開する。</li> <li>・学校運営協議会にて、職員と地域の方が積極的に意見交流できるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページを週1回更新し、学校情報を積極的に発信する。更新は計画表を作成し、見通しをもって行う。</li> <li>・学校だよりを月2回程度を目標に発信する。</li> <li>・行事委員会で、月に一度は学校公開できるよう計画的に行事を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページを週1回以上更新する。</li> <li>・保護者アンケートの「学校は教育方針や行事、活動などの様子を学校通信やホームページ等を通じて保護者に伝えている」の肯定的回答が90%以上になる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページ、学校だよりを使い、情報の発信に努めることができた。</li> <li>・行事の中止や制約のより、今年度は公開することができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、ホームページや学校だよりを活かして、情報発信をしていく。</li> <li>・行事等の内容を考え、学校公開できるように努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において参観日などが実施されない中、常にHPで学校の様子を更新していただき、保護者の肯定的な意見が98%と素晴らしいと思います。今後とも開かれた学校を目指して積極的に情報発信をしていければいいと思います。</li> </ul>

**学校関係者評価総括**

- ・コロナ禍での教育活動は大変難しい状況の中、様々な工夫、取り組みをしていただき感謝申し上げます。数値に関してはよりシビアな評価と改善を期待します。
- ・1人1人の児童への心のケアなどをされながら、授業改善など本当に大変だったと思います。学校が地域や関係者に開かれ、明るい雰囲気の中で挑戦を続けていってほしいと思います。
- ・今まで以上に仲間づくりを大切にし、学習の遅れをなくし「学校は楽しいところだ」という認識で学校生活が送れば良いと思う。
- ・ICT活用など児童が楽しく授業する様子を視察させていただきました。教育の過渡期にある今、教育現場の混乱はこれまでにないものと思います。私たち学校運営協議会にもできることがありましたら、遠慮なくお声かけをいただきたいと思います。

**次年度に向けた重点的な改善点**

- ・自分で考え、自分の言葉で表現し、主体的に学ぶ、自尊心を持った児童を育成する研究を推進する。
- ・様々な学習活動において、ICTを積極的に活用し、情報活用能力の育成を図る。
- ・仲間づくりを核として、支持的な風土のある学級づくり、いじめのないすべての子どもが楽しく過ごせる学校づくりに全職員で取り組む。
- ・学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進する。

自己評価の基準 A：目標を上回った B：目標どおりに達成できた C：目標をやや下回った D：目標を大きく下回った